平成24年度 石狩市教育委員会会議（6月定例会）会議録

平成24年6月26日（火）
第2委員会室

開会 午後 1時30分

○委員の出欠状況

委員氏名	出席	欠席	備考
委員長 中村 照男	○	/	
委員 伊藤 好美	○	/	
委員 土井 久美子	○	/	
委員 門馬 富士子	○	/	
教育長 樋口 幸廣	○	/	

○会議出席者

役職名	氏名	出席	欠席
生涯学習部長	百井 宏己	○	
生涯学習部次長	柴口 史子	○	
総務企画課長	上田 均	○	
学校教育課長	蛭谷 学俊	○	
社会教育課長	東 信也	○	
文化財課長	工藤 義衛	○	
厚田生涯学習課長	池垣 旬	○	
浜益生涯学習課長	尾崎 巧	○	
教育支援センター長	西田 正人	○	
特別支援教育担当課長	森 朋代	○	
市民図書館副館長	丹羽 秀人	○	
市民図書館副館長	板谷 英郁	○	
学校給食センター長	伊藤 和哉	○	
総務企画課総務企画担当主任主査	吉田 雅人	○	
総務企画課総務企画担当主査	高石 康弘	○	
教育支援センター就学指導担当主査	川畑 昌博	○	
社会教育課社会教育担当主査	樋口 潤作	○	

開会宣告

(中村委員長) ただいまから、平成24年度教育委員会会議6月定例会を開会します。

日程第1 会議録署名委員の指名

(中村委員長) 日程第1 会議録署名委員の指名ですが、土井委員にお願いします。

日程第2 議案の審査

(中村委員長) 日程第2 議案の審査を議題とします。

議案第1号 石狩市文化財保護審議会への諮問について

(中村委員長) 議案第1号 石狩市文化財保護審議会への諮問について、提案願います。

(樋口教育長) 議案第1号 石狩市文化財保護審議会への諮問についてですが、先に寄贈されました石狩八幡神社の手水鉢の市指定文化財指定につきまして意見を聴くため、石狩市文化財保護審議会に対して諮問をしたいので、石狩市教育委員会事務委任規則第1条第15号の規定に基づき議決を求めるものです。内容については、事務局から説明をお願いします。

(工藤課長) 本件につきまして、私からご説明いたします。石狩八幡神社の手水鉢につきましては、昨年秋に八幡神社から石狩市教育委員会に寄贈いただいたもので、江戸時代中期の年代に石狩弁天社に奉納されたものです。由来等については、議案資料にありますとおりですが、その文化財的価値については、一つには、この年代のものについては、道央部で数が少なく貴重であることです。また、現在の石狩弁天社の社有地内にある奉納物については、既に市の指定文化財ということで、指定されております。この手水鉢については、様々な理由から本来弁天社にあったものが八幡神社に移されて、今日に至っている訳ですが、本来は、石狩弁天社の奉納物ということで、既に指定文化財に指定されている奉納物と同等の価値があり、一括して扱われるべきものであるということで、今回所有権が石狩市教育委員会に移ったのを機会に指定をしようとするものです。以上です。

(中村委員長) ただいま提案説明のありました議案第1号につきまして、ご質問

等ありませんか。

質疑応答

(中村委員長) 石狩八幡神社の手水鉢につきましては、昨年の秋に市教委の方に寄贈されたとのことですが、それまでは八幡神社で使われていたのでしょうか。

(工藤課長) この手水鉢は、つい2年ほど前までは、実際に八幡神社の手水鉢として使われておりましたが、八幡神社で手水鉢を新しく作り直したという経緯があります。傷みもひどくなってきて、ひび割れなども出てきており、手水鉢なので屋外に置かれておりますから、ひび割れの所に水がしみ込んで凍結し、ひび割れがひどくなるということで、貴重な文化財だということは八幡神社でも認識されており、手水鉢も新しくしたことでもあるし、市教委に寄贈するので、きちんと保存願えないかということで相談がありまして、この度の経緯となりました。

(中村委員長) 本来は石狩弁天社にあったものが八幡神社に移されて、今日に至っているとのことですが、それを石狩市は寄贈を受けて、現在何処に設置換えしているのですか。

(工藤課長) 今年の4月末から、いしかり砂丘の風資料館内で展示をしております。今後も基本的に資料館内で展示あるいは保管をするということで考えております。

(中村委員長) 弁天社、鳥居、灯籠などは、市の指定文化財に指定されていて、それと一体的価値があるので指定するとのことですが、その鳥居などは、今は何処にあるのですか。

(工藤課長) 先に文化財に指定されたものは、石狩弁天社の社有地内にあるのですが、弁天社の建物を含め、これらの所有者につきましては、石狩弁天社の崇敬講社という氏子さんの団体が所有者となっております。過去の経緯がありまして所有者が異なってくるところがあります。

(中村委員長) 指定については、只今の説明でよく分かりました。所有者が異なるということで難しい面があるとは思いますが、一体的に展示する方向での調整は可能なのでしょうか。

(工藤課長) 現在、石狩八幡神社の手水鉢を砂丘の風資料館で保管展示している理由として、一つには、手水鉢自体の保存状態ということがあって、これまで野外に置かれていたものですので、様々な部分で風化や破損が生じているということで、これ以上屋外に置いておくということは、耐えられないであろうということで、現在館内にて保存しているところです。石狩弁天社の他の奉納物につきましては、社殿内にある物もありますが、他の灯籠や手水鉢については、小屋のような物に入っているものもありますけれども、そうっていないものもあって、そういったものと八幡神社の手水鉢を同列の保存環境に置くというのは、耐えら

れないだろうということです。なお、その他の現在崇敬講社で所有されている文化財につきましても、様々な風化が生じている面がありますので、どういったかたちで保存環境を整える、あるいは補修するかということで、これは団体もございますので、相談しながら進めさせていただきたいと思います。

(中村委員長) 他に質疑等がないようですので、議案第1号については、原案どおり可決ということによろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、議案第1号については、原案どおり可決しました。

日程第3 教育長報告

(中村委員長) 日程第3 教育長報告を議題とします。

(中村委員長) 教育長から報告をお願いします。

(樋口教育長)

5月26日 市内中学校体育祭

5月27日 アルバコラーレ30周年記念演奏会(北コミセン)

5月29日 厚田区学校検討会

6月2日 市内小学校運動会スタート

6月6日 管内いじめ・不登校対策本部会議

6月8日 市内中体連

6月12日 校長会

- ・平成24年度の管内の学力向上の取組について

- ・教職員の給与費適正化調査について

- ・平成23年度いじめ・不登校の状況について

新任校長・教育委員交流研修会

6月15日 社会教育委員の会議

名取市立図書館へ支援ボランティア活動

(16日まで、図書館支援ボランティア4名、本の修理)

6月19日 双葉小学校のユネスコスクールの承認書交付式

第2回定例市議会一般質問(20日まで)

- ・校務支援システムについて

- ・厚田・浜益の伝統文化の保存継承について
- ・市内中学校修学旅行先を東北へ
- ・通学路の交通安全点検の実施について
- ・奨学金制度及び就学援助制度の充実について
- ・教職員の給与費適正執行に関する調査・情報提供制度について

6月21日 定例教頭会

- ・市議会一般質問の内容について
- ・業務の進行管理について

(中村委員長) ただいま教育長から報告がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) 6月6日の管内いじめ・不登校対策本部会議の中で今年度の方針が出されたとのことですが、その中の「モラル意識の啓発」についてですが、管内では、どのようなところに重点を置く方針なのでしょうか。

(樋口教育長) 情報モラルの意識啓発については、現在のいわゆるネットトラブルに、残念ながら子どもたちが様々な面で巻き込まれているということで、ネットトラブル根絶に向けたポスター、標語の作成や情報モラルには、「こういう危険性がある」など、親子で考える集会などを管内で進めることにより、ネットトラブルを根絶したいというのが管内の統一的な動きです。

(門馬委員) 一般質問の中に、教職員給与の適正執行に関する調査により、現場が大変混乱したという事項があったとのことですが、現実はどうだったのでしょうか。

(樋口教育長) 8校が半々で関西、関東に分かれています。一昨年までは、東北はありましたが、近年はそういう状況にあります。

(門馬委員) 昨年は、地震が理由でということですか。

(樋口教育長) 昨年度は、地震ということから急遽関西方面に振り替えたということもありますが、ここ近年の流れとしては、新しい学習教材を求めて、そういった方向に一部動いている傾向があるのだろうと感じています。

(門馬委員) 修学旅行先は誰が決めるのですか。

(樋口教育長) 学校において決めます。

(門馬委員) 校長を中心ということですか。父母の意見などは反映されるのですか。

(樋口教育長) 直接的には決定に関わることはないと思いますが、そういう意見も含めて、トータルで行き先を決定することになると思います。やはり、各学校

が教育課程に則って、どのように学習をさせるのかが主軸に置かれて決定をされております。

(門馬委員) 一般質問の最後に、教職員給与の適正執行に関する調査が云々という話があって、先ほどの教育長の話では、現場が大変混乱したという、質問の中にそういう事項があったのですね。現実はどういうことなのですか。

(樋口教育長) 前回にも報告させていただきましたけれども、確かに、事情聴取に一人15分ぐらい時間がかかるものですから、若干、授業に影響があったケースがあったと受け止めてはいますが、このことによって学校が様々な反対活動が行われるなどはございませんでした。ある面では、整然と事情聴取に応じて、当初の予定よりも若干早く終わるなど、混乱などは生じていないと答弁しました。

(伊藤委員) 奨学金制度の充実の質問の関係ですが、5月の定例教育委員会会議でも奨学金の金額などが若干話題に上っていたと思うのですが、もう少し時間がかかるというような答弁をされたということなのですが、それは金額的な面でしょうか。

(樋口教育長) 今回は、「奨学金制度の充実」と「就学支援制度の充実」の二つの質問がありまして、奨学金については、基本的には現在基金を以って、いわゆる支給方式で行っているという実態を考えた時に、トータルの額、あるいは本制度を今後も安定的に進めていくということについては、増額については難しいというニュアンスで答弁しております。この点については、額そのものが、制度の創設以来改定していないということもあり、市として将来的にどういう奨学金制度をもっていかなければならないかについては、検討課題として現在残っていると答弁しました。

(中村委員長) 他にございませんか。教育長報告を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは教育長報告を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第3 教育長報告を終了します。

日程第4 報告事項

(中村委員長) 日程第4 報告事項を議題とします。

① 平成23年度社会教育施設等の利用状況について

(中村委員長) ①平成23年度社会教育施設等の利用状況について、事務局から説明をお願いします。

ここでは、3項目について報告を受けることになっておりますので、項目ごとに説明をお願いします。

(学び交流センター等について)

(東課長) 私から報告事項1 平成23年度社会教育施設等の利用状況についてご説明いたします。資料の1頁をご覧ください。私からは学び交流センター、カルチャーセンター、公民館、ふれあい研修センター、創作の家の5つの施設についてご説明します。先ず、昨年4月にオープンしました学び交流センターですが、昨年1年間の利用実績といたしまして、16,267人、利用件数は1,382件でした。改めて施設の概要を申し上げますと、学び交流センターについては、紅葉山小学校の跡利用施設で、研修室が4室と視聴覚、多目的ホールの計6室が利用可能となっています。定期の利用団体は、32団体にご利用いただきました。活動の種別としましては、合唱・ダンス・健康体操などが16団体、絵画が5団体、俳句・短歌・詩吟等が5団体、手芸その他が6団体です。比較的には、合唱や健康体操などの団体に多く活用いただいている状況にあります。次にカルチャーセンターですが、学校統合に伴いまして、平成22年3月を以って紅葉山カルチャーセンターが廃止となっておりますので、紅南小学校カルチャーセンターのみの実績となります。利用人数は合計で8,657人、利用件数は538件で、前年と比較して人数で約9%、件数で29%の減となっています。次に石狩市公民館についてです。施設は、本館、樽川分館、美登位分館の3館があり、その合計で、人数が36,373人、件数で2,160件です。前年比では、人数で約10%、件数で約11%の減です。カルチャーセンター、公民館の利用人数・件数が減少していることについては、団体・サークルの高齢化、また、新たな加入者の確保が困難であるということから、このような状況にあると理解しておりますが、平成23年度に限って申し上げますと、それぞれの施設を利用していた団体の一部が、学び交流センターに活動の場所を移したことも影響しているものと考えています。次に2頁をご覧ください。ふれあい研修センターですが、高岡、北生振、五の沢、生振の4館があり、総計5,774人で22%の減、件数は455件で約11%の減となっています。最後に美登位創作の家ですが、利用人数については2,277人で前年に比して約8%の増となっています。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありました。この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(門馬委員) 美登位創作の家だけがプラスという状況で、全体で利用が減っている訳ですね。その理由に団体・サークルのメンバーの高齢化を挙げておりましたが、それも分かるのですが、逆に団塊の世代が定年になって地域に帰って来て、そういう人が活動し始めないのかなという疑問を持つのですが、その辺はいかがなのでしょう。

(東課長) 団塊の世代の方がリタイアをされて、その活動の場所の一つとして私共の施設を利用いただくということがあるのではないのかという部分ですが、現実の問題として、実は市民カレッジなどで利用していただいている方のアンケートをとるのですが、年代を確認しますと比較的団塊の世代の方が終わってすぐという方は、イメージよりも少ない状況にあります。カレッジの運営委員さんとお話する機会があるのですが、年金制度と申しますか、そういった部分の影響もありまして、リタイアをしてすぐに、こういった趣味であるとか、学習と申しますか、そういった部分にすぐに時間をかけられる方が以前に比べて非常に少ない感じがするというお話を伺っております。そういった社会的影響も一つあると思っております。もう一つは、施設の利用の部分で申し上げますと、団体そのものが、三十数年という団体もいらっしゃるんですけど、昨年については一つの団体が、いよいよ体調もなかなか継続できないので公民館の利用を止められたという団体もいらっしゃいます。そういったことも影響しているのかと理解をしております。全体としては、学び交流センターを合算しますと相当の人数が増えているのは事実です。公民館、カルチャーセンターについては減少しておりますが、この表にある施設の利用者数トータルでは、一万人程度増えているという状況ですので、今後とも良好な環境も含めて多くの方に利用していただけるようにしていきたいと考えております。

(門馬委員) 学び交流センターが発足して1年たった訳ですが、利用状況については、当初の見込みと比べていかがなのでしょう。

(東課長) 目標数値の設定と比して、どうだったのかということかと存じますが、具体的な数字を掲げて、スタートした訳ではございませんので、実際にはどういう部分で上回っているかどうかは申し上げられませんが、この施設の規模から言いますと一定の利用をいただいているという風には理解しています。人数が多い、例えばダンスとか合唱とかの利用が多くありまして、ニーズはそちら側にあったのかなと思っております。公民館から、さらに広いスペースでお使いいただけるという部分で一定の利用をいただいているものと理解はしております。

(伊藤委員) カルチャーセンターや交流センター、公民館ですが、マックスで使うと当然何人ぐらい、全ての部屋が常時埋まっている訳ではないと思いますが、施設の利用率、例えば曜日ですとか、ひと月の中では月末は少ないとか多いとか、そういった内容は把握されていないのですか。

(東課長) 各施設の利用状況の詳細という話かと思いますが、毎日日報という形で実際に何時、どの団体がどのくらいの時間をという記録は載せておりますし、その年間トータルという整理はしています。どの位のボリュームで何パーセントが活用されているかには、数値が、今手元にないのでお話しはできませんですが。

(伊藤委員) 内部的には交流センター、カルチャーセンターなど、当然維持費、人件費がかかっている訳ですよね。今、門馬委員からも出ていました利用がどうなのかという話も絡めて、花川地区だけに限っていうと、町内会館が相当ありますよね。私も町内会に携わっておりますが、今、老朽化している町内会館もあるのですが、運営を町内会に任されています。それで利用率が低い所もあれば、高い所もある。単年度で予算を見たり、利用を見たりすると、町内会館にも非常に濃淡がある訳ですが、交流センターやカルチャーセンターについても、コスト意識というのも時代ですから、ある程度考えていかなければならないところだと思います。ここに挙がっているのはこれだけなので、話しはできないのですが、市民に多く使っていただくとするのであれば、色々な分析なり、団塊の世代が退職をしてもなかなか使われないというのも、ひよっとすると周知不足というところもあるかもしれないので、毎年この報告をいただいているのですが、交流センターも1年ということで、建物としても立派な作りになっていますので、もう少しその辺なども分析ができるのでしたら、インターネットなどでも、この曜日の、この時間帯に空いているなどを検索できるとか、そういった事も今後検討していただいて、利用しやすい施設を市民に周知できるような方法も検討してはいかげかなと思いますので、よろしくお願いします。

(土井委員) 学び交流センターについては、1年間やってみて、色々な課題が見えてきたと思うのですが、そういうことも含めて、また委員会の中で話し合っ、例えば駐車場の問題とかですね。解決してきてはいると思いますが、その点についても色々話し合っ、よい方向にもっていきたいと思います。

(門馬委員) 学び交流センターについて、1年経った訳ですが、使い勝手ということで利用者から色々な声があがっていると思うのですが、それを吸い上げるような調査をするようなことはあるのですか。

(東課長) 利用団体からのお声をどのように、という話をいただきました。実は年に一度なのですが、2月の段階で全ての団体にお集まりいただきまして、私共からの施設利用に当たってのお願いを含めて、お伺いをいたしました。実際問題、大きな部分の要望はなくて、細々とした調整をすれば解決できるような類の部分

だったものですから、特に報告はさせていただいていませんが、これからも継続することで団体の利用に当たっての課題であるとか、そういったものをつぶさに確認しながら、より良い施設環境にこれからも努めていきたいと思えます。

(門馬委員) 先ほど、団体が高齢化している。32団体という数字が出てきましたけれど、新しいサークルや活動団体などは生まれているのですか。

(東課長) 昨年の学び交流のスタート時ですが、いくつかの団体が新たに立ち上がっています。5つの団体ができて、具体的に活動しています。

(中村委員長) 確か、ふれあい研修センターは、指定管理者にお願いしていたと思いますが、この地域では、そういう指定管理者として受けてくれる組織などがない中、何とか引き受けていただいているとのことをお話を以前に聴かせていただいたのですが、指定管理者と社会教育課の皆さんの間で、利用状況の向上について協議をされていると思うのですが、毎年行っているのでしょうか。

(東課長) 最終の結果報告といいますか、実績報告を毎年あげていただく訳ですが、その際には、実績に対する説明をいただきますし、新たな年度どのような形で進めていきたいと思いますかという部分も含めて相談させていただいています。

(中村委員長) 地域資源を活用していただく方策として、指定管理者制度を導入した訳ですから、具体的な利用率向上について協議していただきたいと思えます。

(東課長) センター長なり、管理者の方と施設の管理運営、また年度で直さなければいけないところも施設としてはありますので適宜接触の機会を持ちまして、利用状況なり施設状況など相互に意見交換や情報収集はしております。ただ、今委員長のお尋ねの利用向上に向けて具体的指導なり、そういった物が着実に行われていたかについては、まだ改善の余地があると思えますので、これからその部分もより注意をしながら指定管理を受託している地元の部分についてお願いなり、お話をさせていただきたいと思えます。

(中村委員長) 他にありませんか。

(資料館等について)

(中村委員長) 次に、資料館等について説明をお願いします。

(工藤課長) 私からは、市内の資料館等の利用状況について説明させていただきます。いしかり砂丘の風資料館については、昨年度は2,473人ということで、一昨年度と比べ、ほぼ横ばい状態でした。厚田区の厚田資料室については、約2,200人ということで前年度と比べますと約2割の減となっています。浜益区のはまます郷土資料館については、約960人で、前年度の実績と比較して65%

の増となっております。昨年度につきましては、震災もございまして、資料館等につきましては、石狩に限らず非常に厳しい年であったところですが、その中で厚田資料室については、2割の減となっておりますが、リニューアルしたのが一昨年で、リニューアルして2年目だということで、若干客足が鈍ってきたという部分もありますし、先ほど申し上げたとおり震災の影響もあったと考えております。はまます郷土資料館については、一昨年は、豪雨災害により7月で休館という状態に入っておりましたが、昨年度につきましては、6カ月間開館をすることができましたので、順調とまで言えるかどうか分かりませんが、順当に入場者が増えたと分析しております。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありました。この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(門馬委員) 厚田資料室の5月が899人で、突出して多いのですが、何か理由があるのでしょうか。

(工藤課長) 厚田区内に創価学会の戸田墓苑というのがありまして、ちょうどこの5月の下旬というのは、戸田墓苑の桜の時期と重なっております。現在、厚田資料室では、旧厚田村の名誉村民ということで、戸田城聖さんの展示も行っていますので、その辺の所縁がありまして戸田墓苑の方から流れて来る。これと8月のお盆時期にそちらから来るお客さんが割と多い状況です。サポートの会からも、その辺お客さんについては、営業活動を強化しようということでお話があります。

(土井委員) はまます郷土資料館ですが、一昨年は少なかったのではよ。それに比べて、昨年は増えたということですが、その一年前と比べてどうだったのでしょうか。

(工藤課長) ただ今、きちんとした数字は持ち合わせていないのですが、4ケタ、千人を超えていたところ。先ほども申し上げましたが、そういう意味で完全に復活したとは言えませんが、順当に増えてきているというぐらいの評価であると考えています。

(中村委員長) 他にありませんか。

(石狩市民図書館について)

(中村委員長) 次に、石狩市民図書館について説明をお願いします。

(板谷副館長) 続きまして、3頁の石狩市民図書館の利用状況について、ご説明いたします。1の開館日数については、蔵書点検作業の工夫などにより、開館日を増やしたところです。2の入館者数ですが、平成22年度は、市民図書館の開館10周年記念事業の効果や図書館まつりが開館以来最高の入館者数を記録したことなどから、21年度比約5%増となりましたが、23年度は21年度に近い数字となりました。3の貸出点数は、減少傾向が続いているものの、22年度はマイナス2.7%でしたから、その減少幅は少なくなっています。4の学校への団体貸出ですが、市民図書館は学校支援にも力を入れておりますので、この数字もさらに増やしていきたいと考えているところです。6の調べ物を行うレファレンスについてですが、図書館の中核的サービスとして取り組んでおりまして、その利用者も少しずつですが増えているところです。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありました。この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(門馬委員) 利用登録者数ですが、新規登録者数という意味ではなくて、一旦登録をしたら、ずっと登録者であり続ける訳で、この数値に含まれるのですよね。そうすると人数が減るというのは、どういう理由なのでしょう。抹消する人がいるという意味でしょうか。

(板谷副館長) 利用登録者数は、その時点の数字なのですが、3年間利用がないと除籍されるということで整理しています。

(門馬委員) 新規登録者の数は押さえているのですか。

(丹羽副館長) 押さえていますが、今数字が手元にありませんので、後ほどのご報告でよろしいですか。

(門馬委員) 後ほどで結構です。よろしくお願いします。

(中村委員長) 他にございませんか。報告事項の①を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは報告事項の①を了解しました。

② 平成24年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について

(中村委員長) 次に、②平成24年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について、事務局から説明をお願いします。

(蛭谷課長) 私から、平成24年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について、ご報告いたします。資料の4頁をご覧くださいと思います。市の教育目標の達成及び現代的教育課題を解決するため、専門的知識や実践的指導力など、教職員に求められる資質の向上を図ることを目的といたしまして、毎年夏季休業期間中にサマーセミナーを実施しております。今年度の開催期日は、7月31日・8月1日・2日・7日・8日の5日間で合計12講座の開講を予定しております。今年開催予定の講座の内容について説明します。講座のうち、7月31日午前の部及び8月2日午後の部については、特別支援教育関連ということで後ほど教育支援センターから説明いたします。それ以外の講座内容について、私から説明します。7月31日午後開催予定の「これから始める実物投影機の活用研修」ですが、研修内容については、実物投影機の基本操作から、全国の学校で行われている実践事例を丁寧に解説し、会場で実際に操作をしながら効果的な使い方のアドバイスを受けて、これから授業で活用するためのコツを学びます。8月1日午前の部の「ぼくとぼくらのまちを守ろう」では、災害時における学校としての具体的対応の留意点、避難時における初期行動など、昨年の中東大震災を踏まえまして改めて見直しが必要となる、これらの防災対策について学びます。午後の部の「わたしたちの石狩湾新港」では、石狩市の豊かな地域資源の一つである新港地域を実際にタグボートに乗船し、新港を見学して、石狩市の地域特性について触れていただきます。8月2日午前の部の「ケータイ・スマホ・SNS」では、現在を取り巻くネット社会、便利な反面、そこに潜む危険性について、日々情報機器が発達しておりますので、時節に適った問題提起、対応策について考えます。5頁をご覧ください。8月7日午前の部「学校と保護者の向き合い方」では、保護者から学校への多様化する要求に対して、その要求の裏側にある本音を探り、的確な対応を通して保護者との良好な関係をつくるためのヒントを考えます。午後の部「体育科における安全指導」では、小中学校の体育の授業における安全に配慮した指導、また、今年度から始まりました中学校武道における安全指導で、特に柔道を中心に起こりやすいケガの例や実技を通して安全指導について学びます。8月8日午前の部「石狩農業の視察とミニトマトの収穫体験」では、生産者から農業への取組を通して、食育への理解を深めるため、収穫体験という五感を通じた体験により石狩の農業について学びます。午後の部「先生のためのコーチングスキル」では、体罰を未然に防ぐために児童生徒の心理を理解し、認めること、共感などの心理的テクニックを用いながら相手にあった双方向のコミュニケーションを継続的にとり、児童生徒の能力を伸ばしていくようなコーチングスキ

ルを身につけるための講座です。

(森課長) 私からは、特別支援教育関係の研修講座について説明します。7月31日午前中に3本の講座を組みました。このように3講座に分けましたのは、研修効果がよりあがるようにということで、対象を明確にして、受講対象を絞った形で研修を実施したいと考えました。「講座1 Q-Uの活用～児童・生徒理解と学級経営」ですが、「Q-Uテスト」という学級の傾向を見るものがあります。これを活用することにより、不登校、いじめを防止し、温かな人間関係をつくり、それぞれ居心地の良いクラス、やる気のあるクラスにしていこうという視点を持つためのテストを通常学級の先生方に受講していただきたいと考えました。また、講座2・講座3ですが、こちらは両方とも特別支援学級の先生方に受けていただきたいと考えております。というのは、石狩市の特別支援学級担当の先生方には、将来的には全員、「田中ビネー発達検査」という簡易的な発達をみる検査について習熟していただきたいと考えております。それで、講座2は、例えば初めて支援学級を持った先生ですとか、今まで検査に触れる機会がなかった先生に初心者向けとしての内容を組みました。講座3は、現在就学指導等で検査を実施されている先生方により少し複雑なバージョンアップした検査の内容について受講していただきたいと考え、このように3本だてで講座設定いたしました。次に、8月2日午後の「心がつながる学級づくり～すべての子どもの自己肯定感を高めるために～」では、どこの学級にも、今支援の必要な子どもさんが多数おります。また不登校になっているケースも多いですので、ただ、個に対応するだけではなく、そのお子さんを巻き込んだ学級経営をいかにやるべきかという、集団の中での個への対応というところをより多くの先生方にと考えましたので、このような内容を設定いたしました。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(伊藤委員) サマーセミナーの開催内容なのですが、それぞれの項目、ほとんどが2時間ぐらいの中で、それぞれの項目を終了しているようなのですが、実践的指導力など教職員に求められる資質の向上を図るという目的から、2時間の講義で、それぞれの題材、この内容を、多分全部を知り得ることができないだろうと思います。2時間受けて、その後、関心のある先生方については継続的な資料の提供なのか、研修なのか、その後のフォローや追加の研修なり、そういったものはあるのでしょうか。

(蝦谷課長) 講義内容については、多岐に亘っており、確かにこの1回受けた限

りでは、全てをマスターできるものではない場合もあります。一つにはきっかけづくりという面もありますし、内容によっては、確かに継続的にスキルの向上も必要な場合もあります。そういった部分については、特にこの内容について毎年実施する必要があるものについては、サマーセミナーでの継続もしていきますし、道の方で実施する関連する研修の情報についても案内しまして、機会の提供をしていきたいと考えております。

（伊藤委員）今、森課長の方から説明があつて、本当に2時間だけでは、この内容は、本当に走りぐらいなのかなという気がしておりますので、アンケートなどをやると思いますので、継続した学習をしたいという先生がいれば、率先して場所や色々なものを提供して、習得していただければと思います。フォローをしてあげられるのでしたら、やっていただきたいと思います。

（森課長）特別支援教育関係では、今年度教育支援センターのセンター機能として研修に力を入れていきたいと思っておりますので、こちらの方を機会として、コーディネーター会議ですとか、特別支援教育の担当者の会議等も設定しておりますし、自主研修等も取り組み始めています。また、センターだより等も活用しまして色々な機会理解、啓発、研修を行っていききたいと考えております。

（樋口教育長）少し補足をさせていただきますが、先生方の研修そのものについては、授業力を向上させるという一番のポイントに向けて、日々研修を進めなければならない訳ですが、それぞれ機能分担をしながら研修を進めていくことが必要だと思っております。先ず、身近な部分としては、校内研修を日常的にしっかりやっていって、道の特別メニューのようなものを持ち帰って還流研修という形も行うことが必要です。より専門的なものは、教育研修センター組合があつて、そこでもサマーセミナーと同様の日常的に先生の時間を配慮した中で研修活動を行っています。さらに、石狩は独自にサマーセミナー、あるいは冬のバージョンなどを取り組んで、より先生方の指導力の向上、あるいは識見を高めるという機会の提供を図るという風にしておりますから、サマーセミナーの中で一つのきっかけづくりをして、より深めるとなった時は校内でレベルの高い研修ということもあるでしょうし、教育研修センターなどでもさらにとりようなかたちが当然必要だと思っておりますので、トータルということで、先生の研修活動について、サマーセミナーがその一分野を支えていると理解していただきたいと思っております。

（土井委員）石狩発のサマーセミナーが、江別でも行われるということで、色々広がりを見せているということで大変良い取組だと思っております。今回は森課長の方から何点かありましたが、8月2日午後の部の百井悦子氏というのは、星置養護学校の校長先生でしたよね。特別支援学級担当でなく、通常学級の先生でも、これは参加できるのですか。もう一つは、食育関係なのですが、今回もあるのですが、前に冬のセミナーの時にも、食育関係で先生から評判が良かったとこ

ろがあるのですが、私としては、こういう時に先生方に石狩鍋の、鮭のおろし方とか、石狩の野菜を使って、冬だと野菜がとれないので、そのような取組、石狩市の特色というか、ふるさとの食を。あるいは、給食センター中で石狩鍋を作るところを見て、実技もするなどがあればと、私個人としては感じているのですが、そういう取組はできないものではないでしょうか。

(森課長) 百井先生ですが、星置養護学校長をされた後、特別支援教育センター長をやられて、そこで広く通常学級での指導方法も研究され、現在大学でも、通常学級での指導法について研究を深められています。札幌市の師範塾というところでも講師をされていて、一般の授業についても学識の深い方です。是非、この講座は通常学級の先生に受講していただきたいと考えております。

(蝦谷課長) なかなか時間等の制約もありますが、貴重なご意見をいただきましたので、例えば、ミニトマトについても、石狩市を代表する産物の一つでもありますので、何かの縁があって石狩市に着任された先生に是非という願いもありますので、この部分については、来年度以降に進めていく手法があるかどうかも含め、担当などと研究させていただきたいと思っております。

(門馬委員) 講座内容の決め方なのですが、勿論、今、先生方に知ってもらわなければならない事柄で決めているとは思いますが。昨年も参加した先生方にアンケートをとったと思うのですが、その中でこんな講座があるといいという回答もあったと思うのですが、そういう現場からの声はテーマづくりに活かされているのですよね。

(蛭谷課長) 毎回、講座実施後にアンケートをとりまして、せっかく先生もお忙しい中時間を作り、参加してくださっていますので、こういった意見について、なかなか全てについて実現するのは難しいのですが、ご希望と時節にあった教育課題の部分を加味して実施しておりますし、今後もそういうスタンスで講座の内容について考えていきたいと思っております。

(門馬委員) 8月2日の「ケータイ・スマホ・SNS」は、前回の教育委員会会議で伊藤委員がおっしゃっていた、今、子どもたちの方が、我々よりもここの機器についての情報を持っていて、どんどん進んでいる、なかなかついていくのが大変だということで、そういう研修も必要ではないかという声があった記憶があったので、まさしく良いテーマだなと思えました。

(中村委員長) 今回のテーマは、本当によく練られており、この時期に取り上げることが本当に必要だとしみじみ思う項目など、良いテーマが連なっていると思っておりますが、新学習指導要領への移行の中で浮かび上がってきた課題、石狩市独自事業の取組への課題、今年度新規事業の小学校低学年に対する英語教育への課題等についても、検討されたのでしようからお聴かせいただきたいのですが。

(蛭谷課長) 先ず、新学習指導要領の観点からいきますと、本年度は中学校での

武道の必修化ということで、武道実施に当たりましては、市議会においても安全対策の面で色々ご質問をいただいたところです。そういう部分がありまして、体育科における安全指導という中で、後半については、特に柔道を行う中学校が多くあるということで、また事故も柔道については非常に心配されますので、こういった部分を取り入れました。また、石狩市としては現在学校のICT化を進める中で、先生方にICT機器の活用方法ということで実物投影機の活用研修、こういう部分もまず、きっかけの機会を提供して、どんどん機器の活用をする授業展開を進めてもらいたいということで、こういう講座をそれぞれ入れております。なかなか、期間的な部分もありますので、あれもこれもと入れられない部分もありますが、今回においては、そういった部分で一部教育委員会としての視点を反映させております。

(中村委員長) 英語教育については、如何でしょうか。

(蛭谷課長) 英語については、今回は、確かに、小学校3・4年生で実施しますが、今回サマーセミナーの中で講座を組むところまでには至りませんでした。

(中村委員長) 石狩市は、今後益々国際港湾都市としての重要な役割を担うこととなりますことから、市教委では人材育成の視点から英語教育を積極的に展開しておりますので、課題の把握をしっかりとした中でテーマを選定することを期待いたします。

(中村委員長) 他にございませんか。報告事項の②を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは報告事項の②を了解しました。

③ 平成23年度石狩市在住の青少年における不良行為・犯罪行為等について

(中村委員長) 次に、③平成23年度石狩市在住の青少年における不良行為・犯罪行為等について、事務局から説明をお願いします。

(西田センター長) 私から、平成23年度石狩市在住の青少年における不良行為・犯罪行為等について、ご報告いたします。資料の6頁をご覧くださいと思います。報告の数字は札幌市アシストセンターと北警察署の協力のもと、巡回指導された時に、石狩市在住の青少年が指導・補導・検挙された数値です。先ず飲酒喫煙等の不良行為は258人です。前年度271人に比べまして、13人減少し

ております。学識別内訳は資料のとおりですが、全体として13人減少しておりますが、22年度に比べまして小中学生の人数は増加しております。行為の内訳も記載していますが、特に小中学生の不健全娯楽における指導・補導数が増加しております。不健全娯楽の112人の内訳ですが、小学生が20人、中学生が92人となっています。不健全娯楽施設はゲームセンター、カラオケボックス、漫画喫茶、インターネットカフェなどですが、それぞれ小中学生の出入りが全く駄目な娯楽施設ではなく、決まった時間や、決まったスペースを利用していなかったこと、保護者の同伴がないこと、保護者がいても定時の時間外で利用した場合、または、平日の稼業日、学校で授業をしている時間に利用している場合に指導・補導されているものと思われます。警察からこちらへの報告は件数のみで、氏名は報告いただけませんが、札幌市アシストセンターからは学校名について報告のある場合があります。この場合は、該当校に連絡しまして都度学校からの指導をお願いしております。また、このような情報は、小中学校で生徒指導を担当している先生方の集まりである生徒指導研究委員会で情報提供させていただき、注意喚起をお願いしているところです。不健全娯楽も含め、指導・補導された場合はその都度現場において警察官・指導員からの注意を受けており、再犯または、再犯しそうな青少年については、警察官・指導員が注意深く見守っていただいております。続きまして、犯罪行為についてですが、暴行を行った粗暴犯が1名です。小中学生の不良行為、犯罪行為等の未然防止については、家庭での子どもたちとの関わりや生活サイクルの正常化など、保護者の意識の改善も必要であることから、学校へは、保護者懇談や学級通信などを通じて保護者とのコミュニケーションも十分とっていただくようお願いしているところです。青少年の不良行為は、石狩市内の娯楽施設が複数存在しないことから札幌市、特に、手稲・篠路・麻生・札幌駅周辺・発寒イオン周辺で警察と札幌市アシストセンターにその指導と補導をお願いしている現状です。石狩市内での巡回補導においては、学校ごとの見周りは継続的に実施されておりますし、教育支援センターとしましても市内の少年補導に尽力された方を指導員としてお願いし、花川南方面を昨年度から、花川北方面については、今年度から公園やスーパーなどの場所を中心に週に2回夕方から夜にかけて2名体制で行っており、非行不良行為の防止に努めているところです。また、試行中ではありますが、保護者意識の改善策のひとつとして、先ほど、生徒指導研究委員会で情報提供していると説明しましたが、この委員会と教育委員会が毎年、「小中高校生校外生活のきまり」を各家庭に周知しております。この中でゲームセンター等への出入りについて、ゲームセンター、ボウリング場、カラオケボックスなどは、保護者または保護者に準ずる大人と一緒に行くことを明記しております。しかしながら、どのような施設が何時まで出入り可能なのか、子ども同士で入店してよいのか、保護者同伴でなければ駄目なのか、などについて

ては具体的なお知らせをしていないことから、イラストなどを使用してより身近に家庭内で話題にしていだけるようなチラシなどを生徒指導先生方のご意見も伺いながら、作成に向けて取り組んでいきたいと考えています。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) 112件の不健全娯楽のことをお聴きしまして、娯楽施設が札幌に集中していて、石狩にあまりないということですが、先ほどお話のあった花川南・花川北で公園・スーパーを夕方から夜の2名体制で巡回している時に見つけた、補導したという件数についてはわかりますか。

(西田センター長) 昨年度から花川南をお願いしておりますが、昨年度の報告はゼロです。今年度についても、北が加わりましたが、現時点では、それぞれ報告はありません。

(土井委員) それでは、ほとんどが札幌の方ということで、これは、家庭、保護者との関係が大ですよ。家庭教育との関連が大変大きな部分を占めていると思うので、何かよい方法はないのでしょうか。大変な苦労があるかと思いますが、スマホについてもそうですけれども、よろしくをお願いします。

(門馬委員) この数字のとり方なのですが、これは補導された時点で石狩の子どもだとわかったらカウント1となる訳ですよ。そうすると、258という数字が出ていますが、「人」となっていますけれど、これは258人なのか、それとも、例えば一人の子どもが何回か補導されて、同一人が喫煙をして、暴走行為をした場合は2とカウントして、実質は1人ですよ。これは、どういうとり方をしているのですか。

(西田センター長) カウントの仕方ですが、先ほども説明しましたが、警察や札幌市アシストセンターからの報告は、氏名報告がありません。従いまして同一人物が、複数の行為に及んでいる場合もあり得ますが、こちらに来た時点で258と合計しますとこの数字になります。

(門馬委員) 258件というのが正しいのですかね。延べ件数ですよ。

(西田センター長) その辺も、あくまでも警察からの報告では、石狩市在住の小学生なり中学生、何人ということで来ていますので、こちらとしましては、「人」で捉えております。

(川畑主査) 警察などが補導した場合に、例えば3人で喫煙をした場合には、1件で3人ですよ。この場合は、「何月何日に、喫煙が3人」と報告があります。また、別な日に、A君という人が、また補導された場合は、別な日でまたカウ

トされます。ただ、こちらでは、名前があがって来ないので、それが同一人物かは分からないということになります。

(土井委員) 今の話でわかりました。私も喫煙と深夜徘徊が多いと思ったのですが、これも家庭の問題だろうなと思いますが、これもダブっている可能性があるということですね。

(門馬委員) 現場の学校の先生が教室の中を眺めていて、自分の学校の子が補導されたということは、分からないものなのではないでしょうか。分かり得ることもあるのでしょうか。例えば、生活態度を見ていると危ないと日頃から感じていたなど。学校名は報告されることがあるという話でしたよね。なかなか、先生が児童生徒個人に対して具体的に指導するというのは難しいのだろうと想像するのですが。

(中村委員長) 札幌アシストセンターや北警察署からの報告は、あくまでも人数と場合によって学校名ということですので、市教委で根絶に向けた個別具体的な取組をしたいと思ってもできないわけですね。制度や仕組みの上から、この様になってしまうのでしょうか。補導員から指導や補導を受けた子どもが再び不健全娯楽に向かわないように、保護者と学校が一体となって取り組むことすら出来ないのは、何か残念な気がします。

(門馬委員) 数字だけがあがってきても、それだけでは、具体的にどうすればいいのか分かりませんね。

(中村委員長) それを活かす良い方法は、何かないのでしょうか。

(西田センター長) ご指摘について、理解するところではあるのですが、先ほど警察から氏名報告がない、都度現場で警察官や指導員が注意をしていただくと、こちらには人数の報告が来るといったことなのですが、あくまでも犯罪行為になりますとそれなりの処理の仕方になる訳なのですが、いわゆる警察側から見て、飲酒・喫煙・粗暴行為・暴走行為・不健全娯楽になりますと、その場での注意喚起ということで終わらせるといいますか、そしてカウントして各該当市町村に流すということになります。こちらとしましては、生徒指導研究委員会等でいただいた情報について流して、そこでの各学校での生徒指導に活かしていただくということを年に何度か実施しておりますし、改めて保護者にも意識していただくように、先生方にはお願いしておりますのでご理解いただきたいと思います。

(中村委員長) 警察からの報告内容は、それはそれで仕方ないのですが、教育に身を置くものとして、やはり犯罪行為に至る前に、少しでも子どもたちに気付いてもらって生活態度を改めてもらうなど、そのきっかけづくりをどうしていかということに尽きるかと思うのですが、教育長は如何ですか。

(樋口教育長) 現在は、警察やアシストセンターの指導員が、その場において、再犯を起こさないようにと、しっかりと説諭しているので、その後の氏名報告などはないのだろうと思うのです。市教委に対して、固有名詞をもらうというより

は、やはり小中学生については、学校にこういう事案があったということを、氏名が何処まで報告できるかはあるかと思いますが、実態が各学校に情報提供される方が、委員長のおっしゃるとおり、今後の再犯防止や対策に資することにつながるのだらうと思います。改めて、アシストセンター・札幌方面北警察署に、その点について可能なかどうかを話し合う場を持ちたいと思います。

(中村委員長)少しでもフォローできる仕掛をよろしくお願ひしたいと思います。

(中村委員長)他にございませんか。報告事項の③を了解ということによろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは報告事項の③を了解しました。

④ 平成23年度学校給食費収納状況について

(中村委員長) 次に、④平成23年度学校給食費収納状況について、事務局から説明をお願いします。

(伊藤センター長) 私から、平成23年度学校給食費収納状況についてご説明いたします。資料の7頁をご覧くださいと思います。現年度分については、調停額272,172,440円、収納済額は、266,955,846円、収納未済額が、5,216,594円、収納率は98.1%で前年比1.1%の減です。続きまして滞納繰越分の調停額26,691,245円、収納済額は、2,697,654円、収納未済額が、23,993,591円、収納率は10.1%で前年比3.1%の増です。現年度分と滞納繰越分をあわせた合計額は、調停額298,863,685円、収納済額は、269,653,500円、収納未済額が、29,210,185円、収納率は90.2%で前年比0.5%の減となりました。今後の未納対策としまして、市税等収納対策推進本部が今年度計画しております最終催告書の発送、それによって何も相談がなければ、支払督促の申し立てを行う予定です。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) 滞納繰越分がどんどん増えている感じですが、私が学校現場にいたときは、生活保護の方、準要保護の方については、最初から出るのですよね。それは、入っていないのですよね。そうすると、それ以外の理由、転居したとか、どのような理由が多いのでしょうか。

(伊藤センター長) 主だった滞納の要因ですが、どちらかと言いますと、札幌市からの転入者が滞納しているのが多い状態です。札幌市の場合は、学校長が給食費を集めておりますので、そちらの方で払わない状態のまま転入してきて、引き続き未納だというのが多いです。あとは、所得の減少により、準要保護に該当しない方も一部おります。

(門馬委員) 札幌市で未納だった人が石狩に転入して、その未納分を石狩市で徴収するのですか。

(伊藤センター長) 札幌市の場合は、私債権といいまして、現年度分については学校長が給食費を徴収しております。札幌から転入された場合、石狩市は入った日にちから石狩市の給食を食べた部分を徴収しますので、その分についての請求はしますけれども、ただ、札幌にいた時に支払わなかったものですから、そのまま石狩に入ってきたときも、継続して払う意思がない。石狩でも払わないというケースです。

(門馬委員) 給食費は時効があるのですか。

(伊藤センター長) 給食費は税と違いますので、税は5年間で時効になるのですが、給食費は私財産になりますので、何もしなければ2年間で時効になります。ですので、2年で時効になる前に、文書を出したり、個別訪問などして、時効を中断させる、延長させるようにしています。

(門馬委員) そうすれば、何十年でも延長を続ければ、子どもが成人しても、この債務は残っているということですか。

(伊藤センター長) はい。

(伊藤委員) 滞納の督促が大変なのは、随分前から分かっておりますので、継続して努力していただくしかないと思いますので、よろしく願います。

(中村委員長) 子ども手当などの議論の過程で、授業料や給食費に充てる等種々ありましたけれど、そういう部分がうまく連動できずご苦労も多いことかと思いますが、札幌市からの転入者で納めていただけない方に、どの様な取組をされているのですか。

(伊藤センター長) 先ほどもお話したとおり、札幌市の場合は学校長が徴収することになっておりますから、督促関係などは件数的に少ないのですが、石狩では、電話掛けなどをして、個別徴収しておりますが、どうしても札幌時代に納めていないので、納付意識が薄いといいますか、ですので、こちらでは食材費として、給食費は徴収しますということでお話をしますし、準要保護に該当するのであれ

ば、申請をしてもらうとか、そういったお話はしております。ですが、準要保護にならないぎりぎりの状態の所得ですとか、そういった状態がありまして、色々分納の話をして、分納誓約を結んでくれないですとか、という状態で未納となっている状況です。

(中村委員長) そういうケースの場合は、本当に丁寧に説明して理解していただくしか道は拓けないのでしょうか。引き続き一層の努力を期待しております。

(中村委員長) 他にございませんか。報告事項の④を了解ということによろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは報告事項の④を了解しました。

⑤ 今後の厚田区の学校のあり方について

(中村委員長) 次に、⑤今後の厚田区の学校のあり方について、事務局から説明をお願いします。

(上田課長) 私から、報告事項の5番目、今後の厚田区の学校のあり方についてご報告いたします。本件については、これまでも教育委員会会議でご議論をいただいておりますが、取組が遅くなりました点を先ずお詫び申し上げます。資料は、8頁から9頁になります。厚田区の学校検討会についてであります。趣旨としては、将来的に児童数・生徒数の減少が見込まれる厚田区の学校において、良好な教育環境の確保するため、より良い学校づくりについて、保護者の方を中心に、地域と共に検討を進めるもので、各校のPTA会長・副会長、保育園の父母会の会長、地域の代表、各校の教頭など17名の構成となっております。5月29日火曜日の午後6時半から厚田区望来コミュニティセンターで開催いたしまして、当日は、14名の参加をいただいております。教育委員会からは、百井部長以下7名が出席をしております。内容としては、開催趣旨の確認の後、今後検討を進めるに当たって望来地区統合中学校、小規模校、少人数教育、聚富中学校の複式化についてご意見をいただきました。今後、議論を始めるに当たって厚田区地域協議会の佐藤会長に座長をお願いし、市教委がサポートするという形で今後進められることで皆さんの了解をいただいております。今後のスケジュールについては、隔月開催の予定で、次回は7月19日木曜日に、小規模校のメリット、デメリットや隣接する学校の児童生徒数、また避難所の指定状況などのデータを

用意して議論をいただくこととなっております。また、9頁になりますが、聚富中学校の複式化の問題について、厚田区の学校検討会と並行して行うこととしていますが、夏休み前を目途に第1回の会議をできるようPTAとの調整を行っております。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(門馬委員) 1の方のスケジュールなのですが、隔月開催予定となっておりますが、いつ頃までに会としての結論的なものを出そうとしているのですか。

(上田課長) 第1回目の時に、ご説明させていただきましたが、年度内には一定の方向性を出していただくということで、開催についても、一応隔月となっておりますが、必要に応じてもう少し短いスパンで集中的にお話をする場合も考えています。

(中村委員長) 聚富中学校の複式化問題は、喫緊の課題として現在市教委と地元PTA等との間で日程を含め調整中とのことですが、平成25年度からの複式が避けられない中、切羽詰まった状態で検討を進めていかなければならない訳ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

(中村委員長) 他にございませんか。報告事項の⑤を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) それでは報告事項の⑤を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第4 報告事項を終了します。

日程第5 その他

(中村委員長) 日程第5 その他を議題とします。

(中村委員長) 事務局から何かございませんか。

① スマートフォンへの対応について

(西田センター長) 私から、先月の教育委員会会議の際、伊藤委員から携帯電話に関するご意見がありました。また、委員長からもインターネット時代における取組などについて、お話を聴きたいとのことでしたので、今現在で押さえていることについて、若干お時間をいただいて説明させていただきたいと思います。

先ず、先月の教育委員会会議では、スマートフォンの問題、特にフィルタリングについて話題となりましたが、スマートフォンへのフィルタリングに関しましては、開発も進みまして、今では実際にスマートフォン向けのインターネット接続サービスでも、携帯フィルタリングサービスが提供されています。しかしながら、問題点としては、携帯フィルタリングサービスがスマートフォン向けに提供されている多様なアプリに対応していないという点です。これまで、平成21年4月に施行されました「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」いわゆる「青少年ネット環境整備法」においては、例えば携帯電話向けのインターネット接続サービスを携帯電話キャリアが提供するに当たり、青少年向けのフィルタリングサービスを提供することが義務付けられておりました。しかし、ここ数年で状況が大きく変わったことの一つとして、インターネットを利用する端末の多様化があり、当然のことながらスマートフォンにおける青少年有害情報対策が必要になってきました。総務省においては、平成23年の10月に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する提言 スマートフォンの時代の青少年保護を目指して」といったものを公表しました。この提言では、青少年が使うスマートフォンのアプリを保護者が制限できる青少年有害情報閲覧制限機能の必要性を提言しておりますし、また、一定の基準に基づいてアプリを選別する青少年有害情報閲覧制限機能を保護者などが利用できるようにすることなどにも言及しています。しかしながら、現段階ではスマートフォンなどのインターネット接続可能機器への対応等については、フィルタリング提供義務規定を改正すべきとの指摘はあるものの、法律による対応ではなく、保護者の判断を尊重すべきであり、先ずは民間による自主的な取組に期待するとしています。今後、このような動きに対しましては、新たな提言も含め、注視していきたいと思っております。また、教育長の方からもご報告ありましたが、過日石狩教育局が事務局となっております平成24年度第1回石狩管内いじめ・不登校等対策本部会議が開催されましたが、いじめ根絶に向けた取組、子どもの人間関係づくりの推進、情報モラルの意識啓発について話し合いを行ったところです。特に、インターネット上の個人情報の公開など不適切な書き込みが多く見られる子どもたちへの情報モラルの指導と保護者への意識啓発を図る必要があることから、今年度のテーマとしては、情報モラルの意識を高める取組の推進ということで確認したところです。石狩市においては、これまでに昨年7月のサマーセミナーで「あなたの知らないケータイとネットの怖い話」と題しまして

市内教職員を対象としまして、札幌市立大通高校の先生を講師に迎え講座を実施しております。また、各小中学校におきましては、非行防止教室及び薬物乱用防止教室の実施をはじめ、NTTが講師となる携帯電話教室の活用についても周知しております。今年度においても、引き続き小中学校への各教室開催の依頼と学校だよりや保護者懇談での取り上げをお願いしているところです。さらに教職員への研修機会としては、前段の報告にありましてとおり、今年のサマーセミナーで8月2日に「ケータイ・スマホ・SNS」と題しまして情報モラル教育の推進をテーマに講座を実施予定しており、より多くの参加をお願いしていきます。また、保護者を対象とする研修機会としては、現在、市P連の母親研修での取り上げをお願いしている段階です。来年度以降のサマーセミナーにおいても、学校教育課と相談しながら、その都度新たな情報を提供できるような内容を取り上げていきたいと考えております。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(伊藤委員) 早速ありがとうございます。今聞いた話で十分理解できたところもありますので、私もまだ、子どもがいて、親の一員として、一生懸命勉強できるところは、していきたいと思っておりますので、継続してよろしく申し上げます。

(土井委員) 市P連の母親研修で取り上げるのは大変良いことだと思います。お母さん方には是非わかっていたかかないと、どうしようもないことですので。継続してお願いいたします。

(中村委員長) 他にないようですので、その他の①を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

② 名取市へのボランティア支援について

(丹羽副館長) 私から、先ほど教育長からも報告いたしました。名取市へのボランティア支援について説明させていただきます。昨年4月の名取市への支援依頼、様々な交流を行っておりますが、その中で昨年秋、図書館が震災で被災した、壊れてしまった本の修理を図書館で活動されている修理ボランティアの方が行ったということがありました。これが縁で、さらに多くの本が壊れているという実態があるそうなので、名取市でも修理ボランティアを立ち上げ、各地で修理の指

導をしている当館の修理ボランティアの4名と当館の主査が同行しまして、2日間にわたって修理の講習会を開催しました。これから名取市でも修理が進むのではないかと考えております。以上です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

(中村委員長) 他にないようですので、その他の②を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

③ 通学路の安全点検及び教育委員研修について

(上田課長) 私から、2点続けてよろしいでしょうか。先ず1点目、通学路の安全点検についてですが、教育長報告にもありましたとおり、現在開催中の定例市議会で一般質問があったところです。各学校においては、日頃から通学路の安全点検を行いながら、危険箇所の把握に努めているほか、教職員、保護者、地域の方が一体となって、通学時の安全指導にも取り組んでいます。本年4月、京都府などで起きました通学時に児童などが死傷するという痛ましい事故を受けまして、今般文部科学省・国土交通省・警察庁の三者が連携しまして通学路の安全確保に取り組むことになりました。市教委としましては、道路管理者、警察などと事務連絡会議で連携を図るとともに、先ず、7月に学校とPTAによる安全点検を行い、8月末までに市教委が調整を行う中で、学校・道路管理者・警察とで危険とされる箇所の抽出を行った後、11月を目途に関係者で対策案の検討を行い、必要な箇所の整備を要望するというような流れでの取組となっています。

もう1点は、教育委員研修についてです。当別町教育委員会学習会への参加について、今年度教育委員研修と位置づけ、ご案内していますとおり7月18日水曜日の午後3時45分頃から5時過ぎまでを予定しております。以上です。

(通学路の安全点検について)

(中村委員長) ただいま事務局より2項目説明がありましたが、先に通学路の安全点検についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) 新聞で少し見ただけなのですが、新聞に載っていましたよね。議会

でも質問があったと、何か花川中学校の子どもと車との接触の件があったという風に見たのですが、実際は自転車なのでしょうか、どんな状態での接触だったのか教えてください。

(上田課長) 今年5月に花川中学校の生徒が徒歩で通学中、車と接触したという事故が1件ありました。また、紅南小学校の児童が、これも徒歩で横断歩道を渡っている時に車と接触した事故が1件あり、5月に2件起きています。

(土井委員) 横断歩道ですか。

(上田課長) はい。信号のない横断歩道です。

(土井委員) この安全点検、大変なことになるかと思います。前にも、信号機の問題で、色々な調査をした時にも花川中学校地区、若葉小だったものですから、危険な通学路が、除雪も通学路は全然されなくて、車との接触事故が心配で、除雪してくれるように掛け合ったりそんな経験もありました。北海道ではかなりあると新聞にも出ていました。子どもの安全のために、できれば夏休み明けまでにせきると本当はいいのですけれどね。点検したからすぐよくなるという訳ではないのしょうけれど。よろしくお願いします。

(門馬委員) 北海道の場合は冬、雪の関係ということで、また夏とは違った危険があるのかなと思いますので、もしかしたら冬の点検も必要になってくるかも知れないなという気がしました。

(上田課長) 通学路の安全点検は日頃から行っており、この5月にも既に各学校で行っているのですが、今回の取組としては、道路管理者である北海道開発局、北海道建設部や警察と学校、市教委が三者で、ともに危険な箇所を点検した後に安全対策が必要な所を協議して、対策を要望していくという流れです。先ずは7月中の学校とPTAの点検、その次に三者で危険箇所を抽出するというのが8月末までの作業スケジュールです。その後、11月末までにどのような対策をとるかのメニュー案や具体的な対策案を協議して、最終的には要望の設置などに取り組みることとなっています。

(伊藤委員) 京都の事件が発端で、何か通学路だけの話だったのですが、例えば自転車での通学というのは、小学校ではありませんし、中学校では北中が通学を認めていないので、それ以外の中学校だったりするのですが、トータル的に、子どもたちへの教育も通学路だけの点検でいいのか、逆に片手落ちなところもあるのかなというところで、今一度、子どもたちに対する安全教室、当然各学校では、しっかりやっているのは知っているのですが、そういった所ももう一度、各学校にお願いをしたり、見直しする必要があるかまではわからないのですが、そういった面を含めて、トータル的に交通安全について、検討や点検をやっていただきたいと感じています。

(中村委員長) 他にございませんか。

(教育委員研修について)

(中村委員長) 次に、教育委員研修についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(中村委員長) 当別町教育委員会の学習会参加について、石狩市教育委員研修事業に位置付けていただき感謝しております。せっかくの機会でありますので、当別町教育委員会での学習会に参加し、今後の教育委員会活動に活かせるか否か把握して参りたいと思います。

(中村委員長) 他にないようですので、その他の③を了解しました。

(中村委員長) 教育委員の皆さんからございませんか。

(中村委員長) 以上で、日程第5 その他を終了します。

日程第6 次回定例会の開催について

(中村委員長) 日程第6 次回会議の開催日程を議題とします。

(中村委員長) 次回については、7月25日の水曜日、13時30分からの開催を予定しております。よろしく願い申し上げます。

閉会宣告

(中村委員長) 以上をもって、6月定例会の案件は全て終了いたしました。以上で、平成24年度教育委員会会議6月定例会を閉会いたします。

平成24年 7月25日

委員長 中村 照 男

署名委員 土 井 久美子